

ごあいさつ

日立製作所は来年、創業 100 周年を迎えます。創業当時、鉱山の掘立小屋の「ベンチャー企業」であった日立が、国家の発展に貢献するという強い志をもち、幾多の困難を乗り越えて今日の規模まで成長できたのは、一つに研究開発力と知的財産力を絶えず高めてきたことにあります。創業社長小平浪平は、「優れた自主技術・製品の開発を通じて社会に貢献する」という企業理念を実現するため、創業当初から「産業、工業の発達は研究に待たねばならぬ」と研究開発の重要性を説き、「発明は技術者の生命である」とも述べて特許権の取得を奨励したと言われています。

現在、米国での金融危機に端を発する世界同時不況の影響により、日立の経営は大変厳しい状況にありますが、これまで以上に「社会イノベーション事業」への傾注を深めていくことで、今回の危機に立ち向かっていきます。高信頼・高効率な情報通信技術に支えられた社会インフラを次の時代の新しい姿に変革していく力こそが、他社が追随できない日立の強みではありますが、このような強みは、長年の研究開発および蓄積された知的財産に支えられています。今後、「迅速な決断、迅速な行動」をさらに徹底し、日立グループ全体で研究開発や人材などの経営資源を社会イノベーション分野に重点的に配分することで、次の時代に向けた成長を加速してまいります。

本報告書では、「社会イノベーション事業」を支える「研究開発」と「知的財産」に焦点をあて、これらにおける日立の取り組みをご報告いたします。

本報告書を通じて、日立の「研究開発」及び「知的財産」の概況をご理解賜れば幸甚です。

2009 年 6 月

執行役会長 兼 執行役社長

川村 隆